

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	VENOM SHOCK PEARL	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.470	ΔRG	0.035	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

**テストボール：VENOM SHOCK PEARL**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

**比較対照ボール：VENOM COBRA**

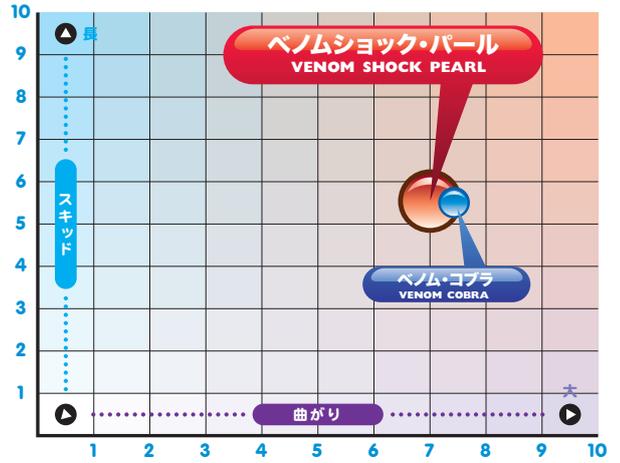
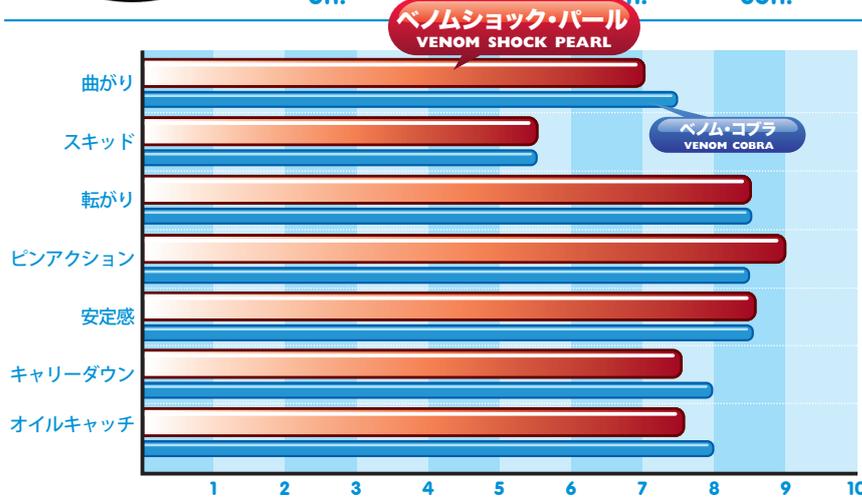
フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



### ボールの評価

日本でMOTIV社の代表的なボールはJACKALやCOVERT REVOLTですが、米国ではCOVERT REVOLTよりもVENOM SHOCKのほうがポピュラーな位置づけになっています。

初代VENOMはライト～ミディアムオイルで一番評価が良く、対応領域の広さやその多彩性が評価されました。今回採用されているGear CoreはRGが低く、ΔRGも低い設定で、初代とほぼ同等の数値を生み出しています。

しかしデュアルデンシティコアによって、よりbackendでアンギュラーな動きが特徴です。

このVENOM SHOCK PEARLには新しいテクノロジーとして最新のHexion MFP(Medium Friction Pearl)Reactiveが採用されています。これは手前の走りを優先しながらも摩擦に対する早めのリアクションを求めているためのCoverstockで、Box Finishを5500LSPで仕上げることでHexion MFPとTop Gear Coreとのマッチングを最大限に生かせる組み合わせと表面仕上げと言えるでしょう。

私のテストでは、キャッチをするイメージは感じるのに滑るイメージとは違ったスキッドを感じるボールだと思いました。かなり光沢がある表面加工なので、この光沢をややなくすと柔らかく曲がってから奥がキレルイメージを作れるほど、雰囲気は漂っています。初期設定ではやや遅めのコンディションで使用できるようになっていますが、スキッドさせて後半使う初期設定か、やや光沢をなくしてミディアムオイル全般で使うかはボウラー各々のタイプに委ねられるところでしょう。

回転数の多めの方は長いスキッドとアンギュラーな曲りを気に入って頂けると思いますし、私ぐらいのボウラータイプであれば、後半このボールで押し通せるボールでもあります。奥での動きが明確に見えるボールなので、やや遅めのコンディションで攻撃的にラインを攻めるのであれば、ピンキャリーまで期待できるこのVENOM SHOCK PEARLはおススメです。

### 特記事項

**TRIDENT QUEST、LETHAL PANANOIAにも使用された、スキッドの中にも粘り強いキャッチを感じるHexion ReactiveのPearlバージョン。VENOM特有の先でのキレを求める方はこのボールはおススメです。**